

## 中高生の為の出張肝臓病教室

研究分担者：川田 一仁 浜松医科大学医学部附属病院 肝臓内科

**研究要旨：**近年の肝炎ウイルス治療の発展は著しいが、一方で未だに新規感染者を一定数認めており、新規感染予防のために積極的な情報提供を進めていく必要がある。ピアスやタトゥー、風俗など肝炎ウイルスの感染リスクのある行為に興味を持つ年代の中高生に対して肝炎ウイルス教育は十分に行われていない。我々は2020年から静岡県内の中高等学校で出張肝臓病教室を開催しウイルス性肝炎について講義を行ってきた。講義前のアンケート調査で、中高生の肝炎ウイルス認知度はB型肝炎57%、C型肝炎32%といまだに低いことが確認された。出張肝臓病教室後には肝炎ウイルス感染の危険性のある行動について約90%の学生が理解していたが、6ヶ月後には正解率は低下しており、定期的な情報提供が必要であると考えられた。肝臓病教室後に学生から両親、祖父母への肝炎ウイルス受検受療勧奨についても提案しているが十分な成果は得られておらず、更なる工夫が必要である。学校教員に対する肝炎ウイルスの理解度についても確認したが、感染ルートに関する理解は乏しく、肝炎ウイルス検査受検率も低いことから、教員に対する肝炎ウイルスに関する情報提供も増やしていく必要がある。

### A. 研究目的

肝炎ウイルスに対する抗ウイルス療法の発展に伴い、B型肝炎は肝炎の進展を予防することができ、C型肝炎に至っては副作用なくほぼ全例で体内からウイルスを排除できるようになった。現在、WHOは2030年までのB型・C型肝炎ウイルス撲滅を目標に設定している。一方で、違法薬物注射や風俗などを介した新規感染は未だに一定数認めている。したがって新規感染者を減らすことはB型・C型肝炎ウイルス撲滅のために重要である。

中高校生はピアスやタトゥー、風俗に興味を持ち始める多感な年代である。特に高校を卒業後にそのような機会に触れる可能性が高いことから、在学中から肝炎ウイルスについて十分に理解しておく必要がある。しかしながら、現状は中高生に対して薬物教育や癌教育は行われているが、肝炎ウイルスに対する教育は行われていない。また中高生の両親や祖父母に対する肝炎ウイルス啓発も子供や孫である中高生から伝えた

方がより効果が高いと考えられる。そこで我々は①ピアスやタトゥー、風俗に興味を持つ年代の中高校生にウイルス性肝炎の危険性について学ぶ機会を作る②中高校生から両親や祖父母に肝炎ウイルス受検・受療勧奨を行うという2点を目的に2020年より静岡県内の中高等学校で出張肝臓病教室を開催し、肝炎ウイルスをテーマに講義を行っている。

今回、講義前後にアンケート調査を行い、中高生や学校教員の肝炎ウイルスに対する認知度や理解度について調査研究を行い、中高生に対する肝炎教育基盤の創出を試みた。

### B. 研究方法

静岡県教育委員会とスポーツ・文化観光部総合教育局私学振興課から静岡県内の中高等学校へ出張肝臓病教室について案内し、2024年度は応募のあった17校（中学校2校、高等学校14校、中高一貫校1校）、計7403人の生徒に対してウイルス性肝炎

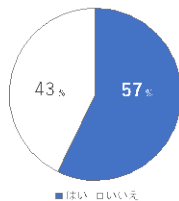
をテーマに講義を行った。1. 中高校生の肝炎ウイルスに対する認知状況の把握、2. 肝臓病教室開催の理解度と家庭内周知に対する有効性、3. 中高生の肝炎コーディネーターへの関心、4. 6ヶ月後の理解度の持続状況、5. 学校教員の肝炎理解度について調査した。

## C. 研究結果

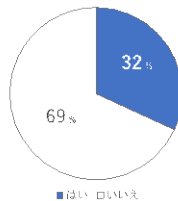
### 1. 講義前の肝炎ウイルス認知度

事前アンケート調査を回収できた 6000 人で検討した。

Q: 「B型肝炎」を聞いたことがあるか？



Q: 「C型肝炎」を聞いたことがあるか？



「B型肝炎、C型肝炎を聞いたことがあるか？」に対して、B型肝炎 57%・C型肝炎 32%であった。令和5年度がB型肝炎 48%・C型肝炎 30%であったことから、B型肝炎の認知度は上昇傾向であることが確認された。

### 2. 講義後の理解度と家族への周知

事前アンケート調査を回収できた 4877 人で評価検討した。

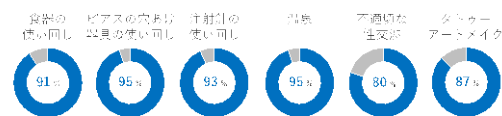
#### I. 講義後の理解度

「肝炎ウイルス感染のリスクのある行動はどれか？」

- ① 食器の使い回し
- ② ピアスの穴開け器具の使い回し
- ③ 注射針の使い回し
- ④ 温泉入浴
- ⑤ 不適切な性交渉（風俗など）
- ⑥ タトゥーやアートメイク

上記内容を講義 1 週間前後にアンケート調査で確認を行った。全体的に例年通りの高い正解率であり、一定の理解が得られていた。

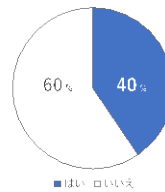
Q: B型・C型肝炎ウイルスの感染リスクは？



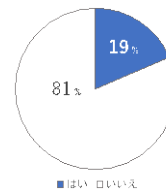
## II. 講義後の家族への案内

講義中に両親や祖父母へ資料を渡すことと肝炎ウイルス検査の有無の確認、治療案内を強く薦めた。

Q: 家族に講義内容を伝えたり、資料を渡したか？



Q: 家族に肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか聞いたか？

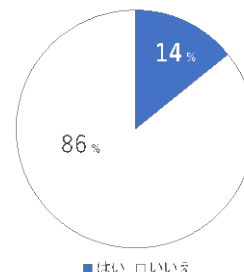


4割の生徒が家庭内で肝炎ウイルスについて、両親や祖父母に案内をしていたが、肝炎ウイルス検査受検の有無までの確認は充分ではなかった。本結果は令和5年度と大きな違いはなかった。

### 3. 肝炎コーディネーターへの関心

静岡県では中高校生は肝炎コーディネーター取得の資格がない。今後、中高生の資格取得について検討しているため、肝臓病教室後の中高生の資格取得への興味について調査した。

Q: 肝炎医療コーディネーターの資格取得に興味ありますか？



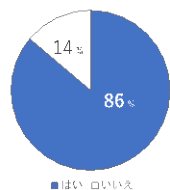
14%の生徒が興味を示していた。決して高い数値ではないが資格取得可能へ進める検討の余地はあると考えられた。

#### 4. 6ヶ月後の理解度

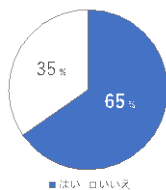
肝臓病教室 6ヶ月後の肝炎ウイルスに対する理解度について、10校 2623人にアンケート調査を行った。

アンケート内容は①B型肝炎、C型肝炎を聞いたことがあるか？②肝炎ウイルス感染のリスクのある行動はどれか？

Q:「B型肝炎」を聞いたことがあるか？

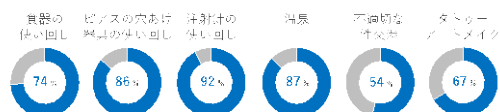


Q:「C型肝炎」を聞いたことがあるか？



6ヶ月後もB型・C型肝炎ともに「聞いたことがある」が低下していたが、肝臓病教室前と比較すると高い認知率が得られていた。

Q: B型・C型肝炎ウイルスの感染リスクは？

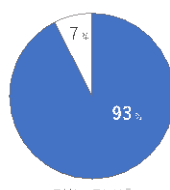


講義後に十分得られていた理解度も6ヶ月後は総じて低下していた。特に「不適切な性交渉」と「タトゥーとアートメイク」の肝炎ウイルス感染リスクに関する理解度が著明に低下していた。

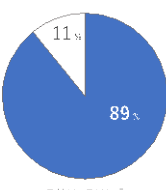
#### 5. 教員の肝炎ウイルスの理解度

8校 147人の教員に対して、肝臓病教室前に肝炎ウイルスの理解度についてアンケート調査を行った。

Q:「B型肝炎」を聞いたことがあるか？

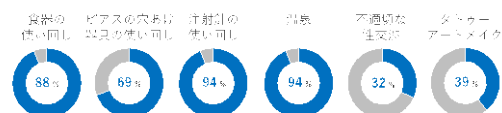


Q:「C型肝炎」を聞いたことがあるか？



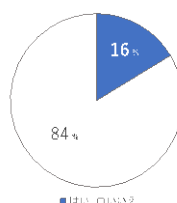
学生と比較して、B型・C型肝炎について聞いたことがある教員は多かった。

Q: B型・C型肝炎ウイルスの感染リスクは？



しかしながら、感染ルートについては十分理解されていなかった。特に血液や精液を介して感染することについて理解は不十分であった。

Q: 今までに肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか？



Q: 「はい」と答えた方は結果を把握していますか？



肝炎ウイルス検査結果を把握している教員は16%と低率であった。

また、教育現場における肝炎に関連した問題について自由記載でアンケート調査を行った。感染している生徒への怪我の対処に関する質問が1問あったのみで、他には特に記載が無かった。

#### D. 考察

##### I. 中高生の肝炎ウイルスに対する認知

B型肝炎の認知度がC型肝炎よりも高いのは、弁護士事務所によるB型肝炎訴訟を案内するCMの影響が考えられた。前年度と比較して、特にB型肝炎の認知度は上昇していたが、全体の半数程度であり、引き続き積極的に肝炎ウイルスについて案内をしていく必要がある。

##### II. 肝臓病教室の効果

###### 1. 中高生の理解度への貢献

肝臓病教室を行うことで講義直後の理解度は90%程度得られており、十分に内容が伝わっていた。しかしながら、6ヶ月後の理解度は低下しており、定期的に講義を行う必要がある。

## 2. 両親、祖父母への案内

講義後に4割の学生が家庭内で肝炎ウイルスに関する内容を話題にしていた。しかしながら、効果としては不十分であり、さらなる工夫が必要と考えられた。

## 3. 肝炎コーディネーターへの関心

14%の生徒が興味を示していた。学生内での肝炎ウイルス理解度の上昇のためにも、学生の肝炎コーディネーターは重要であると考えられる。学生の関心度は高い数値ではないが、関心のある学生がいることから、資格取得可能へ進める検討の余地はあると考えられた。

## Ⅲ. 教員の理解度への貢献

学生よりもB型・C型肝炎について聞いたことがあったが、体液からの感染リスクについては理解されていなかった。また肝炎ウイルス検査の受験率は低率であった。学校生活に肝炎ウイルスが影響を及ぼす経験はないようであるが、学内での感染予防のためにも教員に対しても肝炎ウイルスについて講義を行う必要があると考えられた。

## E. 結論

新規感染予防のために、中高生に対して積極的に肝炎ウイルスの情報を提供する機会を作ることが重要である。各学校へ出張して講義を行うことの効果は非常に高いが、長期的な効果を得るためには繰り返し知識を提供する必要がある。特に血液や精液を介して感染することについて理解が不十分であり、講義内容に反映していくことが大切である。また講義後に家庭内で肝炎ウイルスについて話す機会を増やすことで、両親や祖父母への受検受療へつながる可能性が高いことから、さらなる工夫をしながら肝臓病教室内で推奨していく必要がある。また、学校生活での感染を予防するためには、教員にも肝炎ウイルスに関する教育を行うことも必要である。

## F. 政策提言および実務活動

### <政策提言>

なし

### <研究活動に関連した実務活動>

出張肝臓病教室の開催（中学校2校、高等学校14校、中高一貫校1校）

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

なし

### 2. 学会発表

なし

### 3. その他

#### 啓発資材

なし

#### 啓発活動

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし